

令和3年度実施 アンケート調査結果	市民調査				保護者調査				
	住民基本台帳(20歳以上)無作為抽出 1,500通発送(5月~6月) 有効回収568通(有効回収率37.9%) 中学生以下同居なし83.1%				市内学校・保育園等に通う小学生までの保護者 2,873通発送(5月~6月) 有効回収2,489通(有効回収率86.6%)				
性別(男41%、女58%) 年代(50代26%、40代19%、30代15%他) 地区(打田24% 粉河21% 那賀10% 桃山11% 貴志川34%)		性別(男9.2%、女90.5%) 年代(30代48.1%、40代40.5%) 地区(打田33% 粉河16% 那賀10% 桃山11% 貴志川30%)							
質問内容	調査結果			特記事項	調査結果			特記事項	
■市立小学校について									
① 小学校の通学距離	1位	2km以内	35.9%	70代、桃山地区では「2km」「3km」「4km」以内の割合が同程度	1位	2km以内	35.7%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	
	2位	3km以内	28.7%		2位	3km以内	25.4%		
	3位	4km以内	18.8%		3位	4km以内	15.4%		
② 1学年あたりの学級数	1位	2学級	57.2%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	1位	2学級	61.3%	打田では「3学級以上」が51.3%と1位。粉河・那賀では1学級も2割弱有	
	2位	3学級以上	33.6%		2位	3学級以上	28.2%		
	3位	1学級	5.1%		3位	1学級	7.6%		
	4位	複式学級	2.6%		4位	複式学級	1.4%		
③ 「学級数」選択理由 ※複数回答	1位	人間関係に変化を与える	68.5%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	1位	人間関係に変化を与える	64.1%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	友達とのふれあい	56.0%		2位	目が届きやすい	50.7%		
	3位	目が届きやすい	45.8%		3位	友達とのふれあい	48.5%		
④ 1学級あたりの児童数 《国の推奨児童数：35人》	1位	21人~30人	70.8%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	1位	21人~30人	69.4%	属性別も概ね同様。粉河・那賀では11~20人も比較的高い。	
	2位	11人~20人	19.0%		2位	11人~20人	24.9%		
	3位	31人~40人	9.0%		3位	31人~40人	5.0%		
⑤ 「児童数」選択理由 ※複数回答	1位	目が届きやすい	60.4%	80代では「集団における役割分担」が1位	1位	目が届きやすい	69.9%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	集団生活での役割分担の経験	49.5%		2位	集団生活での役割分担の経験	39.7%		
	3位	多くの友達との付き合い	38.9%		3位	実験や体験等機会が増える	34.6%		
■市立中学校について									
① 中学校の通学距離	1位	6km以内	40.0%	女性、30・60・70代、那賀、同居子供有では「4km」の支持が高い	1位	4km以内	38.5%	粉河・桃山・貴志川では「6km以内」が最も高い	
	2位	4km以内	38.7%		2位	6km以内	35.8%		
	3位	2km以内	9.9%		3位	2km以内	13.0%		
② 1学年あたりの学級数	1位	4学級以上	52.1%	属性別は概ね同様。30・60・70代、那賀・桃山では「2~3学級」の支持が高い	1位	4学級以上	52.9%	打田・貴志川は約7割が「4学級以上」を指示するも、粉河・那賀・桃山では「2~3学級」が高い(56%~75%)	
	2位	2~3学級	44.4%		2位	2~3学級	42.8%		
	3位	複式学級	1.6%		3位	複式学級	1.0%		
③ 「学級数」選択理由 ※複数回答	1位	人間関係に変化を与える	72.4%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	1位	人間関係に変化を与える	65.8%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	友達とのふれあい	62.9%		2位	友達とのふれあい	57.4%		
	3位	学年全体の活気と取組盛大	43.8%		3位	社会性と協調性が育まれる	37.5%		
	4位	部活等選択肢の広がり	41.9%		4位	学年全体の活気と取組盛大	36.1%		
	5位	社会性と協調性が育まれる	40.5%		5位	目が届きやすい	33.9%		
④ 1学級あたりの児童数 《国の推奨児童数：35人》	1位	21人~30人	68.1%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	1位	21人~30人	68.7%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	31人~40人	24.3%		2位	31人~40人	21.1%		
	3位	11人~20人	6.3%		3位	11人~20人	7.9%		
⑤ 「児童数」選択理由 ※複数回答	1位	集団生活での役割分担の経験	51.4%	30・40代・同居子有では「目が届く」が高く、20代、那賀では「友達」が高い	1位	目が届きやすい	52.8%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	目が届きやすい	46.1%		2位	集団生活での役割分担の経験	41.7%		
	3位	多くの友達との付き合い	44.5%		3位	多くの友達との付き合い	39.1%		
■市立学校の今後の適正な規模や配置について									
① 今後の小中学校の教育環境 【学校の位置・通学区域・学校数について】	1位	維持する方が良い	51.6%	70代、桃山は「維持」が高く、30・50・80代、粉河・那賀では「検討」が高い。	1位	維持する方が良い	54.6%	属性別でも概ね同様であるが、那賀においては「維持」42%より「検討」55%が高い	
	2位	検討する方が良い	47.7%		2位	検討する方が良い	43.8%		
② 学校規模や配置について	1位	近隣の学校と統合する	42.1%	各属性(性別・年代・地区)においても「近隣統合」が最も高い。	1位	近隣の学校と統合する	42.2%	属性別でも概ね同様であるが、40代、打田では「通学区域の弾力化」が高い。また、那賀においては「近隣統合」が60.7%と非常に高くなっている	
	2位	近隣小中学校と統合し小中一貫校(義務教育学校含む)を新設	31.4%		2位	通学区域の弾力化を行う(隣接通学からの通学を認める)	40.7%		
	3位	通学区域の弾力化を行う(隣接通学からの通学を認める)	24.7%		3位	近隣小中学校と統合し小中一貫校(義務教育学校含む)を新設	20.8%		
	4位	通学区域を変更する	23.6%		4位	通学区域を変更する	17.5%		
③ 将来の学校の再編について 【学校の位置等、教育環境について「検討するがよい」と答えた方を対象。重要と考えることについて】※複数回答	1位	児童生徒数や教員数のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること	52.8%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様 ・その他意見「地域との関係に配慮し説明を開催し丁寧な対応すること(20.3%)	1位	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること	56.2%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様 ・その他意見「地域との関係に配慮し説明を開催し丁寧な対応すること(14%)	
	2位	通学手段について児童生徒の負担にならないよう配慮すること	51.7%		2位	児童生徒に不安や戸惑いがでないよう配慮すること	47.1%		
	3位	児童生徒に不安や戸惑いがでないよう配慮すること	42.8%		3位	児童生徒数や教員数のバランスが取れた学校規模や通学区域編成に配慮すること	46.3%		
④ 現在の学校の位置・通学区域・学校数を維持する理由 【学校の位置等、教育環境について「維持するがよい」と答えた方を対象。その理由について】※複数回答	1位	児童生徒数が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配	74.4%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	1位	児童生徒数が遠距離を通学するのは大変であり、登下校が心配	83.9%	属性別(性別・年代・地区)も概ね同様	
	2位	地域コミュニティの核である学校がなくなるのはよくない	51.7%		2位	地域コミュニティの核である学校がなくなるのはよくない	34.1%		
	3位	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いこと	25.6%		3位	学校の小規模化・少人数教育は児童生徒にとって良いこと	26.5%		
■市立学校の今後の適正な規模や配置について									
① 義務教育学校の設置について 県内(和歌山市)義務教育学校設置されていることについて	47.2%	良い	33.8%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	45.9%	良い	31.8%	属性別(性別・年代・地区)も同じ結果となる	
		どちらかといえば良い	13.4%			どちらかといえば良い	14.1%		
	4.2%	どちらかといえば良くない	2.3%		2.3%	どちらかといえば良くない	1.1%		
		良くない	1.9%			良くない	1.2%		
	21.7%	どちらともいえない	21.7%		29.8%	どちらともいえない	29.8%		